

学校法人岩崎学園 横浜実践看護専門学校
令和6年度自己点検評価項目の達成および取組状況

1. 教育理念・目標			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
1	1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	・ 学生便覧 教育計画に記載 教育理念・教育目的・教育目標 カリキュラムポリシー
	2	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を描いているか	④ 3 2 1	・ 学生便覧 学年の到達目標に記載
	3	学校における職業教育の特色は明確になっているか	④ 3 2 1	・ 学生便覧 カリキュラムマップ 概念枠組み 目指す看護師像マップ
	4	理念・目的・目標育成人材像・特色などが学生、保護者等に周知されているか	④ 3 2 1	・ 学生には新入生入学前と入学後のオリエンテーション、保護者には各学年の保護者会にて周知

①現状と課題

- ・ 担任から年度初めのHR・休暇前後のHR、開講時や実習オリエンテーションなどの機会に、教育計画を教育理念・目標を繰り返し説明し、目指すゴールを明確にした。自分が目指す看護師像をイメージしながら、看護への関心とモチベーションを持続できるよう働きかけた。

- ・ 4月の対面での保護者会を開催し、学校の理念や特色を周知する機会となっている。3年生の国家試験合格に家庭や保護者のサポートが必要不可欠となるため、3年の保護者へ「3年生通信」を3回発信した。

②今後の対策

- ・ 学年ごとに学び経験の積み重ねを実感できるように、学生便覧やカリキュラムマップを活用し、学生や保護者との共有をはかる。
- ・ 自己肯定感を向上しつつ、学生の成長や学びを支え自立を促す指導が重要となる。また、学生への変化や成長も学生が実感できるように、学生に機会を逃さず伝える。教員間の情報共有と意思疎通を図り、指導の方向性は合致共有をする。

2. 学校運営			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
2	1	目標等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	・ 校務分掌規程 ・ 年度当初に事業計画を策定し、責任者を配置して、進捗状況を管理
	2	運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化され機能しているか	④ 3 2 1	・ 組織図、会議等に関する規程に記載、決定事項は共有している
	3	人事・給与に関する規定は整備されているか	④ 3 2 1	・ 就業規則、給与規程、業務評価に関する規程
	4	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	・ 臨地実習契約書、個人情報・プライバシーの保護の徹底 ・ 災害・事故発生時マニュアルの周知 ・ 感染症に関するマニュアルの周知
	5	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	・ 平成27年度より自己点検評価を実施、ホームページにて公開 ・ 看護学科基本情報、高等教育修学支援新制度の情報公開 ・ 保護者会で学校運営、教育活動を報告
	6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1	・ 学生の情報を一元管理した「学習支援システム」、就職支援のための「就職支援システム」を活用 ・ 学園ポータルを活用し教職員のスケジュール管理、情報共有 ・ 学生の欠席把握

①現状と課題

- ・ 公務分掌規程や年度初めの事業計画など教職員会議での周知が徹底された。また定位置に組織図、業務分掌などを掲示することで、より明確化された。

- ・ 教務事務と学年リーダー・実習調整・教務主任間での報告・連絡・相談が徹底され意思疎通が図れた。業務分担の明確化と業務整理につながった。

②今後の対策

- ・ 各種オンラインツールの活用は浸透している。引き続き、ITを活用した効果的な教育並び業務管理は今後も継続し取り組む。

3. 教育活動			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
3	1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	④ 3 2 1	・カリキュラム(学生便覧) 「構造図」 「学科進捗表」 ・下記ポリシー(学生便覧) ディプロマ・ポリシー カリキュラム・ポリシー アドミッション・ポリシー ・教育理念目的・目標に沿ったカリキュラム作成・知識・技術・態度を含めた実践力の向上のカリキュラム編成と演習・実習時間・課外活動の確保
	2	教育理念・育成人材像や看護師需給を踏まえた修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確か	④ 3 2 1	・新旧カリキュラム学生便覧「学科進捗表」 ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める基準に基き、旧カリキュラム, 3000時間97単位新カリキュラム102単位の運用。
	3	カリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	・新旧カリキュラム共通学生便覧「構造図」 学生便覧学科進捗表」 ・新カリキュラム概念枠組みを学生便覧に掲載。 ・基礎、専門基礎、専門科目の順に進度と学習内容の体系付け実施。
	4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	・施設見学、臨地実習(1,035時間)をカリキュラムに組み込み学生の実践力を涵養 ・該当分野の教職員の学会発表、学内研修会の実施
	5	関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの教育方法の作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1	・実習施設と実習開始前に評価方法等の打ち合わせ実施 ・毎年2回教育課程委員会を実施 ・実習指導者会議を実施し、指導体制意見交換を検討
	6	関連分野における実践的な教育が体系づけられているか	④ 3 2 1	・カリキュラム共に学生便覧「学科進捗表」 ・順序性、領域ごとに学習内容を規定
	7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	・自己点検・自己評価委員会を組織化し実施 ・アンケートによる授業・実習評価を実施し、評価果を教員にフィードバック ・スタログの活用 データによる可視化
	8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	・学生便覧「学則・施行規則」に明記
	9	資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1	・国家試験対策として模擬試験と振り返りを1年次より実施 ・国家試験の傾向と対策について教員が模擬試験実施業者、出版社より情報を得て指導。指導研修会への参加 ・専門外部講師による補講、実習後領域別国家試験問題取組み ・教員による弱点問題の指導及び補講を複数回実施

10	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	- 専任教員資格取得者を採用し、専任教員養成未受講教員については計画的に研修を実施 - 外部講師については、看護教育に携わった経験講師を採用 - 本校の教育目標を説明し、シラバスを提示・協力依頼 - 教育理念、教育目標は図式化と保護者に説明。本校での学びの到達を可視化
11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4 ③ 2 1	- 学会、研修会の積極的な参加後教員に伝達講習会を実施5人 - 教員の学会への参加 - 自己研鑽のため大学や大学院での学習2人
12	職員の能力開発のための研修が行われているか	④ 3 2 1	- 県主催の研修会 新人研修 リーダーシップ研修 - 教員研修（学校主催） - 学会参加 日本看護学校協議会 各種学会

①現状と課題

- ・ 確実な単位履修の結果、旧カリキュラムの学生全員卒業となる。
- ・ 学力低迷者の本試験不合格者が多い科目は補講の実施、授業では確認テストの実施、試験の解説など時間を十分に確保した。再試験対象者に補習講義を実施し成果を得ている。

②今後の対策

- ・ 来校した卒業生に国試対策や日頃の学習の取り組み、実習期間の仕方などお話を聞くことにより、学習のさらなる動機づけに活用する。

4. 学修成果			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
4	1	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	・担任、アドバイザーに加え学内就職担当・就職指導部による総合的就職支援を実施 ・模擬面接、履歴書の書き方、接遇について指導 ・就職確定率100%達成に向け採用時期の相談に随時対応 ・学内に実習病院を招き学内合同病院説明会を2年次の3月に実施し早期に就職の意識付け実施
	2	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	・国家試験合格率100%を目指しグループによる試験対策模擬試験を随時実施 ・自宅学習時間確保の指導、学習環境の調整 ・卒業試験の実施 ・領域毎の補講の実施
	3	退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1	・主な退学理由として、1年生は進路変更、2年生、3年生は実習を境に学習意欲が低下 ・入学前からのメンタルの不調 ・経済的支援が必要な学生については、定期面談を実施し、奨学金等の案内を行っている。 ・令和6度退学率は5.9%
	4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1	・在校生は担任・アドバイザー面接で産学連携の参加、ボランティア活動などを把握 ・卒業生は実習病院や来校する卒業生から情報を入手
	5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1	・校友会や学園祭ホームカミングデーを通し卒業後の動向を把握 ・卒業生が来校し、国試勉強経験説明

①現状と課題

- ・ 病院説明会やインターシップに参加しながら就職活動を行った。看護職として就職をしないと決めた学生1名を除き、全員が希望する就職先に就職ができた。
- ・ 3年課程（養成所）の国家試験合格率は95.8%、全国91.1%であり、既卒者は100%合格の結果であった。新卒者の全員合格には至らなかった。成績低迷の早期学習支援の実施と、後半のメンタル面の対応をサポートして学校での個別指導の継続が課題となる。
- ・ 学生は計画的に就職活動や就職先や書類の記載など相談に来た。すべての実習終了後、国家試験受験後に就職活動をした学生もいたが、就職率は100%であった。
- ・ 退学者は19名であり、8%である。

②今後の対策

- ・ 3年次担当教員を中心にデータ分析と、これまでの丁寧な個別指導対応に加え、学内、学外の国家試験対策施策を積極的に導入。臨床判断能力に必要な基礎知識の獲得は必須である。模試の効果を判定しながら、不合格者の要因分析を踏まえ、より効果的な国家試験対策施策を見極めて行く必要がある。また、学校と連絡が取れない学生については保護者と連携しながら登校させる。

5. 学生支援			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
5	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	・担任、アドバイザーと連携した就職支援体制を構築 ・最新情報の提示（インターシップ病院パンフレットなど） ・学内合同病院就職説明会実施 ・願書記載指導、模擬面接の実施
	2	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	・学習面では担任、アドバイザー、実習担当教員がサポート ・健康面は校医、スクールカウンセラーによるサポート ・学校生活全般、経済的な面は担任アドバイザー、教務事務担当者による対応
	3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	・横浜実践看護専門学校特待生制度 ・岩崎学園看護師育成基金 ・岩崎学園奨学生 ・学費分割納入制度 ・学生寮 ・岩崎学園以外の奨学金制度 ・給付金
	4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	・年度毎に健康診断を実施。 ・校医による健康診断後の指導、看護教員による健康相談を適宜実施 ・カウンセラーによるカウンセリングの実施
	5	課外活動に対する支援体制は整備できているか	④ 3 2 1	・サークル活動（2サークル）の支援体制 ・岩崎学園横断の学園祭部活動、 ・他校との連携強化を実施
	6	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1	・学生寮、学生会館の提供。その他の相談は担任、アドバイザーが実施。定期面談の実施
	7	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1	・入学直前オリエンテーション、各学年毎に保護者会を実施し、学校生活、学習状況を説明 ・保護者へ成績証明書の発行 ・クラス便りをメールで発信 ・保護者との面接（電話または対面）
	8	卒業生の支援体制はあるか	④ 3 2 1	・就職施設との情報交換のカミングデイ実施 学園祭
	9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1	・臨床看護スタッフの技術演習、シミュレーション教育研修の実施
	10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④ 3 2 1	・高校生の通年の来校対応、高校生への模擬授業の実施、高校訪問で看護師の仕事ややりがい、キャリアアップなど将来の可能性など具体的な説明を行い、看護師養成の理解促進を実施 ・神奈川県専修学校各種学校協会の協力を得て、「総専協夏季連携講座（看護師系）」開校

①現状と課題

成績低迷や出席状況の低下や受講態度に変化がある場合は、積極的に保護者に情報提供を行い、保護者と連携を図り学生指導を進めた。学生が保護者に伝えている内容の齟齬、学生の意思に任せていると協力が得られない保護者、まったく連絡が取れないなど状況は様々である。学校と家庭でのダブルサポート体制の充実と、保護者との連携作りは課題である。

学習習慣がない学生、基礎学力低迷の学生が2割弱を占める。入学前よりメンタルサポートを受けている学生も増加している。実習開始直前まで、実習の可否の判断を医師に仰ぐケースもあつた。情報共有しながら、実習病院と柔軟な対応と密な連携が重要となる。

- ・ 経済的に困窮している学生も増加している。奨学金担当者との情報提供や情報共有も図れた。学業を継続するため支援体制は整えられた。
- ・ 卒業時、学園と学校と卒業生の連絡ツールとしてグループラインを作成した。情報提供や情報交換に今後活用する。
- ・ 学生が立ち上げた2つのサークル活動も順調に運営され、メンバー以外の学生の認知度は高まった。

②今後の対策

- ・ 引き続き、学生個々の状況に応じた指導（生活面や学習面）、保護者の学校とのダブルサポート体制を整える。また、保護者との関係構築のアプローチを継続する。
- ・ 希望する就職先への就職、早期離職に繋がらないよう自分に合った就職先の選択、自分のキャリアデザインを描き就職ができるようサポート体制を強化する。

6. 教育環境			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
6	1	施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④ 3 2 1	・ 指定規則に沿った必要な教材の確保はできている。必要に応じメンテナンスはできている ・ 設備は教室・看護実習室及び各演習室、図書室
	2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1	・ 外部施設を利用し、新入生宿泊研修を実施 ・ 単位取得に必要な臨地実習施設の確保
	3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	・ 学生、教職員を含めた全員参加防災訓練を2回/年、不審者侵入を想定し防犯訓練を1回/年実施 ・ 消火器や消火梯子等防災機器の設置箇所、使用方法の説明・体験など1回/年、設備点検は毎月実施 ・ 緊急連絡網の作成 ・ 防災フローチャートの作成

①現状と課題

- ・ 教育設備の修繕は、使用頻度の高い機器（マイク・変換機）交換、ブラインドおよびLEDの交換を行った。
- ・ 学内外の不測に事態に対応できるよう特化した保険に学生は全員加入している。保険適応の事例はなかった。
- ・ 防災設備・備蓄点検の実施。避難訓練2回/年は経過的に実施、防災の周知に継続し取り組んでいる。

②今後の対策

- ・ 学校施設および備品の点検作業を行い、修繕計画立案と実行につなげる

7. 学生受入れ募集			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
7	1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか。	④ 3 2 1	・ 進路ガイダンス、学校説明会、入試説明会、オープンキャンパス、高校訪問等で情報を提供。 ・ 各種進学情報誌で学校基本情報等を提供
	2	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	・ Webサイトや入学案内書に学校の理念、教育目的、教育課程を掲載し、学校の特徴を公開
	3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	・ 入学案内書、高校訪問、進学ガイダンス、Webサイトにて情報を公開
	4	学生納付金は妥当なものになっているか	④ 3 2 1	・ 学生募集要項やWebサイトにて全学年分の学費、教材費を公開

①現状と課題

- ・ Instagramのストーリーズなどを活用した。学生の普段の学校生活のありのままの様子を発信した。学校生活情報を多角的に発信した結果、校名認知促進に繋がった。
- ・ 高等学校の進路担当教員との連携、現役生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベント、近隣の他県に学校説明会イベントに参加した。しかし、大学進学希望の傾向が進み、学生募集に苦慮した。

②今後の対策

- ・ Webサイトの閲覧数や募集要項の反応など情報を収集し、情報発信を強化する。
- ・ 看護師の魅力、資格取得や就職情報など本校の取り組みなど、高校生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベントを設定する。

8. 財務			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1				エビデンス
8	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	・ 決算書（令和6年度）
	2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	・ 予算書（令和7年度）
	3	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	・ 前期後期の収支決算
	4	財務情報公開監査の体制整備はできているか	④	3	2	1	・ ホームページにて公開

- ①現状と課題
- ・ 学校の予算計画を基に財政状況は適正に運営している。
- ②今後の対策
- ・ 財務の会計監査および情報公開体制の整備を引き続き取り組む。

9. 法令等の遵守			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1				エビデンス
9	1	法令、保健師助産師看護師法、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	・ 保健師助産師看護師学校養成所指定規則等に基づき、行政指導の下で適正に運営
	2	個人情報に関し、その保護のため対策が取られているか	④	3	2	1	・ 入学試験願書書類、成績表、実習記録、患者受持承諾書などの学生の個人情報に関し、鍵のかかる場所に管理し、守秘義務の徹底を励行。肖像権の確認 ・ 学生に対し講義、実習オリエンテーションなどを通じて情報リテラシーの倫理的配慮の指導を実施、ハラスメント委員会の設置
	3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1	・ 令和5年度の自己点検評価の結果をふまえ、問題点の共有し対策にあたる。
	4	自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1	・ 自己点検評価を実施、ホームページに情報公開をしている。

- ①現状と課題
- 法令等の遵守は、行政指導のもと適切に実施し、情報公開をしている。今後も点検項目や評価基準及び手法の妥当性について精査を進める
 - ・ 生成AIの浸透により、いつでもどこでも活用が身近となった。学生の生成AIの認識や活用方法など情報管理の周知徹底が必要となる。
- ②今後の対策
- ・ 教育における生成AIに関する知識や実際の活用について、倫理面に配慮し活用できるよう学生および教職員へ周知徹底を図る。
 - ・ デジタル社会における個人情報保護の意味について法令を遵守するよう学生に、場面（学内・臨地実習）や状況など具体的事例を提示し周知徹底する。

10. 社会貢献・地域貢献			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1				エビデンス
10	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	④	3	2	1	・「総合学科高校夏季公開講座」（夏休み1講座）の実施による高校生を受け入れ、教育資源と施設の活用 ・通信制看護教員養成研修、教務主任養成講習会に施設を提供 ・資格試験（TOEIC）や会社の研修を受け入れ教育資源と施設の活用 ・成人式着付け会場に貸出し施設の活用
	2	ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	④	3	2	1	・コロナが5類になり、神奈川県との包括協定にて、各種スポーツイベントへの救護活動や高齢者健康保持コグニサイズ普及活動、音楽イベントのサポーター（病院や音学事務所主催）など地域のボランティアに参加している

①現状と課題

- ・ 県内総合高校に通う高校生20名を受け入れ、看護職について学習を深め、実習室を利用し看護体験を実施した。学生の看護技術の練習や学生と交流する機会を設けた。学生は、高校生の反応を捉えながら説明をするなど対応していた。
- ・ 認知症高齢者とともに走るチームオレンジのボランティア、地域連携講座や神奈川県との包括協定などボランティア活動に参加した。地域のボランティアに自らメンバーを募り参加するなど社会活動に貢献している。
- ・ 学園と学校スペース管理ツールを活用し、会社の研修会場としての利用も増加している。学校教育資源と施設の活用に貢献している。

②今後の対策

- ・ 地域連携講座や神奈川県との包括協定などボランティア活動を計画的に紹介し、学生が社会・地域貢献することにより自らの成長に繋げる。

11. 国際交流			適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1				エビデンス
11	1	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	・ 入学選考規定（入学資格審査項目）
	2	国際交流を意識した授業科目が設置されているか	④	3	2	1	・ 基礎分野「国際文化交流Ⅰ・Ⅱ」の科目設定
	3	国際的視野を広げるための学習環境を整えているか	④	3	2	1	・ 国内と台湾の感染状況の情報および厚生労働省の渡航に関する情報に基づき判断

①現状と課題

- ・ 4月に台湾の花蓮市の地震があった。台湾研修に影響がないことを十分確認し実施した。高雄市にある輔英科技大学看護学科の学生との交流や医療施設の見学を通じて他国の医療体制や異文化の価値観の違いなど多様性についても学んだ。8月より研修準備を開始し研修に臨み、台湾での研修の研修は、国際的視野を広げるためのカリキュラムの有意義な位置づけとなっている。

②今後の対策

- ・ 感染症や国際情勢と自然災害なども鑑み、今後も国際的視野を広げるためのカリキュラムを充実させる。